

4.22シンポジウム

警戒区域内に取り残されたウシの活用の道を探る

日時:2012年4月22日(日)

13:00~16:00

場所:サンライフ南相馬

南相馬市原町区小川町322-1

参加無料

問い合わせ:animal-welfare@bios.tohoku.ac.jp

基調講演

警戒区域内に取り残された動物とどう向きあうか

林良博(東京農業大学教授・東京大学名誉教授)・山根義久(日本獣医師会会長)

第一部:警戒区域内に取り残されたウシの実態

(講演1) 大熊町の状況.....池田光秀・美喜子(農家)

(講演2) 富岡町の状況.....坂本勝利(農家)

(講演3) 浪江町の状況.....吉沢正己・山本幸男(農家)

第二部:警戒区域内に取り残されたウシをどう活用するか

(講演4) 行政の意向・・桜井勝延(南相馬市長)

(講演5) 農地保全に牛を役立てよう・・落合一彦(草地畜産種子協会放牧アドバイザー)

(講演6) ウシの被曝状況と除染・展示研究への利用・・佐藤衆介(東北大学教授)

座長:森田茂(応用動物行動学会特命チーム代表、酪農学園大学教授)

主催:応用動物行動学会 警戒区域内家畜保護管理特命チーム
後援:南相馬市、家畜おたすけ隊、希望の牧場~ふくしま~、アルカディア